

くろつち便り

今月の内容

反戦・反核・反原発(3/11)／統一地方選(4/9)／
労金GG大会(3/28)／野草折々59(チグム)／
Series学校現場から⑭／ごてれつの独り言⑯／
くろつち会総会・交流会・歓迎会(6/17)／
次回の金曜集会是5/12日 17:30～



↑会報QRコード

反戦・反核・反原発

福島沖地震から12年目の
3月11日、ストップ川内原発!が鹿
児島の天文館公園
であった。

福島での犠牲者
への黙祷をささげ
た後、向原代表



原発の近くに住む私たちが意識しなければならぬのは2つあります。1つは地方の人間の命がないがしろにされているということ、2つ目は事故に際し誰も責任を取らないということです。



シュプレヒコール

らが壇上に立った。
ここ数年のコロナ禍で規模縮小の集会になっていて、肝属からも数名の参加者にとどまった。それでも県下各地からこれだけの有志が集まり、元気なシュプレヒコールを響かせているのを聞くと、励まされる。(僕自身、数年ぶりに参加。しかし後のパレードには参加できなかった。)

さかのぼ
それより遡ること1週間、3月3日は第1金曜日でした。いつも通りイベント広場にいつものメンバーが集まり、反戦・反核・反原発を市民に訴えた。(右上写真)

4月は選挙があるから第2週にということだったけど、あいにくの雨。

また5月はゴールデンウィークを避けて、第2週の12日にすることになった。



日和見的統一地方選挙

9日投票の県議選、西之表市では基地化反対派が落選したもの、柳誠子さんや前野義春さんらは当選を果たした。



一番問題にすべき原発問題や馬毛島問題・改憲問題等がはっきりした争点にならなかった点が気になる。かの川内市でさえ、原発問題を避けていたような気がする。これではダメだというのははっきりしている。

周りの形勢を覗き自分の主体的な態度を示さない人を日和見主義者(オポチュニスト)というが、近年、有権者・立候補者双方とも日和見的側面が強くなっている気がする。(樋園)

労金友の会GG大会



3月28日労金友の会GG大会が快晴の下、満開間近の桜花を見上げながら実施されました。くろつち会から8名、合計60名の参加でした。

山口家族が参加して下さり、息のあった、睦まじいプレーを披露され、感激でした。ありが

とうございました。
主な結果は次の通りです。

- (敬称略)
- ▽松下徳二(38打、12位、ホールインワン1回)
- ▽古川浩二(39打 15位)

全体でホールインワンが22打出るなど激戦でした。1位(30打)、2位(30打)、3位(32打)

(文 内俊郎)



くろつち会総会・交流会

コロナ禍のためここ数年多くの行事ができませんでした。2020年以降開催できなかった総会を今年は6月17日(土)に開催する予定です。

交流会も計画されていますが、様々なものが値上げされていて、参加費もその影響を受けざるを得ないようです。

4年ぶりですが、楽しみです。



ぶつくさ言うん
ごまの樹信 (21)

◆「お笑い米軍基地」

人間は「防衛機制」といって無意識に不快な状況を見聞きしないようにして自我を守ろうとするらしい。

先の報道特集で沖縄の10人余りの芸人集団「お笑い米軍基地」が紹介された。沖縄では防衛機制が働いてかどうか、現状をしっかりと見ない人が増えているらしい。現状を笑いに変えて、沖縄の現状

をしっかりと考えてもらおうという劇団だ。団長の名言「米軍基地はコントだ」が印象的だった。(初公演が2005年ということらしい。DVDも出ているがどの巻も完売だった)

◆闘病記⑧ 淡い期待

一年前からの予約で大病院で検査を受けた。検査も今年で最後になったらいいなあと淡い期待を抱きながら受付を済ませて順番を待った。さして待たされることなく呼ばれたので、おっ、今日は早く終わるかも

知れないと思ったが、後で考えると検査に時間がかかるから早めに呼ばれたんだらうというのが分かった。担当医から今日の検査の概略を聞いた。

一昨年、手首からカテーテルを挿入して冠動脈にステントを留置。そして昨年はそのステントがうまくいってかどうかが調べるために、再び手首からカテーテルを挿入したのだった。ひょっとして今年も・・・という一抹の不安はあったが、手首から入れた

のは造影剤で、胸のCTスキャンで画像がしっかりと映るようになるためのものだったのでホッとした。

あれやこれやの検査で終わったのが3時過ぎ。最後に担当医からの話で、結果は良好とのこと。そして何と来年の検査、再来年の検査などの話があり、検査も今年で最後ということにはならず、同じ病の知人から毎年検査と聞いてはいたものの、やはり淡い期待でしかなかった。(榎園)



マスク着用が個々の判断に委ねられたとは言え、まだまだ子どもたちのマスクへの依存度は大きいようです。マスク

我が生活のリズムは、着任した4月3日からすっかり変わりました。とにかく定時退庁ができない、仕事が終わらない・・・すでに、わずかに残っていたエネルギーも無くなりそうです。

ゆつくりと流れていた時間が、歩く速さも変えるほど忙しい現場へやって来てしまいました。全校児童20人だった大黒小学校から、900人近くの寿北小に籍を移してスタートした新学期です。3年生5クラスの中の一つ、元気がいっぱいの子どもたち31名です。

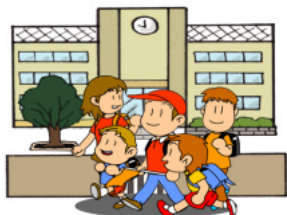
学校現場からシリーズ その14
寿北小 関下俊郎

いまだ続く再任用・パート

をとった顔と名前が一致するまで時間もかかりました。公務分掌の割り当てがほとんど無くなったのが唯一の救いですが、ここに来て驚いたのは忙しさだけではありません。

子どもたちに与えられた教室内の収納ボックス(かばん棚)は一人に1個。縦29cm横25.5cm、奥行39cmでランドセルがやっと入る大きさです。歯ブラシやコップを入れる容器もなく、子どもたちはその都度自分が持ってきた袋に入れてフックに下げます。体育服や給食着、図書バッグなどもすべて教室内や廊下につけたフックに下げます。我がクラスのフックの数108個。しかも、教室後方の設営用の壁は押しピンを刺しても効き目がない

ほとぼろほとぼろ・・・こんな劣悪な学習環境のもと、先生方は黙々と業務をこなされています。4月の職員会議、合同訪問に向けての指導案提出の提案が教頭から出されました。早速、提出の必要性があるのかと一石を投じ、それよりこんな劣悪な環境で学習している子どもたちを見て欲しいと訴えました。翌日校長室に呼ばれ「指導案提出は何とか協力を。」とお願いされ、「その代わり学習環境のことは強く訴えます。」とのこと。相変わらず決まり切った回答でした。

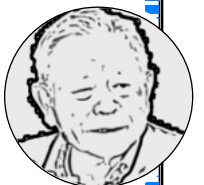


野草新々-59-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ

チングルマ (バラ科)

東日本の高山、雪渓周辺の湿地に群生する。



花の季節は夏。花が過ぎると花柱が伸びて綿毛のような実をいっぱいつける。写真はチングルマの綿毛

2000年9月4日 大雪山旭岳山麓